

第九十四回楽々俳句会(ちば歩)

令和五年四月十三日(木) 晴

吟行：千葉公園 九時集合

投句三句

五句選

句会場：活動センター 十時から

武久 1 6 揺れ合うて風をまとひて藤の花

武久 2 ほればれと池を鏡に若緑

久 1 3 筈の十二単衣を切り開く

武 1 1 老は来る我もそれなり飛花落下

武 1 1 目借時ベンチに鳥の声遠し

久 3 春昼の水輪焔めく鯉の舞

久 2 葉脈のしやりしやりとして桜餅

久 2 齒むきて指先のしわ深くなる

久 2 何もかもしばし忘れて飛花落下

久 1 四方の根春土捉らふ楠大樹

久 1 芍薬の苔に耳の有るやうに

武 1 靴が跳ぶ過ぎ去りし時鞆見て

久 鞆や靴跳ばす過ぎ去り日

久 初蝶のふわり一頭軽さかな

久 1 2 柔らかな春の水面に鯉笑う

久 1 2 盃に一人嗜む春の宵

久 1 1 旅客機の春雲抜ひて又抜ひて

久 1 1 ゆつたりと鯉を泳がせ藤の花

久 1 藤の花眺めてじつと刻は過ぎ

久 1 花吹雪童小走り生母の膝

久 1 春光に輝きし彩戦後の山

久 春光や戦後の山の彩輝きし

久 6 染め分くる斜面のつつじ紅の濃き

久 3 藤の花うつむいて咲く池のふち

久 2 戸に出でよ雑念払ふ著莪の花

久 2 花筏ボート行く道墨絵かな

久 花筏うねり行きたる墨絵かな

久 2 古い連れの話は尽きず日永かな

久 1 好きな風好きただけ連れて蓮池へ

洋子

粹歩

洋子

ミチ子

久登

恵美子

恵美子

洋子

成子

成子

恵美子

武彦

信雄

成子

成子

今日子

利太郎

久登

久登

育子

育子

ミチ子

ミチ子

利太郎

信雄

信雄

久登

久登

弘子

武彦

静代

静代

鞆とはブランコ

落むきし
忘るる

花筏 ボート

1 A I のアナの告ぐるる花便り

1 滝すじの青き水草凜として

川筋の青き水草凜と生へ

1 千葉公園色塗り替えて春惜しむ

1 紋みせて夫婦黄蝶すれちがう

1 日影差す丘に傾るるつつじかな

1 桜蕊地面に降つて赤い絵かく

桜薬根元に赤き点描絵

1 春の闇禁教令は中国へ

1 幾重にも長き房ゆれ藤の花

行く春や親しきものと泣き笑い

万緑や池の景色も淡緑

黄砂降るゴビ砂漠からの春の使者

黄砂降るゴビ砂漠から季の便り

つつじ咲く千葉公園や鳥の声

麗かや父子先頭のモノレール

花の下この坂道が通学路

来て見れば松の緑の荒木山

長閑さや水面に鯉と丘の鳩

長閑なり波間の小舟ゆつたりと

散歩道食材探し春の草

春一番髪を逆立ちて踏み出せ

恵美子

豊隆 滝は夏一寸と早い

静代 春惜しむは一寸早い

ミチ子 つがい

武彦

弘子

信雄

信雄

宣子

宣子

万緑や池の逆さ絵淡緑

黄砂 春 とともに春

モノレールの先頭に父子麗かに

坂道の

荒木山松の緑に染まりたる

長閑さや水面には鯉淵に鳩

ゆつたりと波間の小舟長閑なり

春の草摘んでは戻る慣れし道

参加者

洋子・恵美子・弘子・育子・ミチ子・静代・今日子・宣子・成子

信雄・利太郎・粹歩・豊隆・武彦・久登

欠席 園子

予定

五月十一日(木) 京成千葉駅 九時集合 おゆみの線の眺望

十月 活動センター

六月八日(木) 千葉公園 九時集合 十時 活動センター

七月十三日(木)